

# カナザワ ケンチク サンポ vol.2

カナザワエキ・ヤスエチヨウ・ムサシガツジ・  
タマガワチヨウ・オヤマチヨウ・コウリンボウ  
金沢建築散歩 金沢駅・安江町・武蔵ヶ辻・玉川町・尾山町・香林坊



JR KANAZAWA STATION  
MOTENASHI DOME



HOKKOKU BANK  
MUSASHIGATSUJI BRANCHI

OYAMA JINJA



TAMAGAWA CITY LIBRARY



TAMAGAWA CITY LIBRARY・KANAZAWA BUNKA HALL  
THE ARCHIVES OF  
MODERN HISTORY RECORDS



SHIINOKI CULTURAL COMPLEX



**A** もてなしドーム  
Motenashi Dome

これが、金沢らしさ

最近メディアでも話題にあがる金沢駅。伝統を継承していく歴史的都市でありながら、新しいものも取り入れ進化する金沢らしさが、アルミフレームとガラスを使用した最先端のドームと

伝統芸能である加賀宝生の鼓をイメージした鼓門にあらわれています。訪れた人々に傘を差し出す、そんなおもてなしの心が詰まっている金沢の新しい玄関口です。

## JRカナザワエキ モテナシドーム・ツヅミモン

JR金沢駅もてなしドーム・鼓門

PICK UP  
KENCHIKU  
01

JR KANAZAWA STATION  
MOTENASHI DOME・TSUZUMI-MON

金沢らしさを追求したおもてなしの玄関口



**B** アルミ構造材  
Aluminum Structure

緻密な計算の建物

アルミ合金を構造材とし、それを補強するようにドーム内にはケーブルが張られています。中央部の星形のロッドで補強されたテンションリングに放射線状にケーブルが集まり大屋根を支えています。



**C** 地下広場  
Underground Square

イベントブースとしても

もてなしドーム中央の大階段を下りると地下広場へとつながります。情報コーナーや中庭もあり、広場では雑貨市を行ったり演奏会を行ったりとイベントブースとしても使われています。



**D** 鼓門  
Tsuzumi-Mon

デザインも機能性も

横円状に二重に配置された柱に格天井の屋根がのり、伝統的な寺院建築をイメージさせる鼓門。実は門としての機能だけではなく、柱の中にはドームに降った雨を再利用するための排水管や地下の排気口が通っています。その横のバスの乗降車場の屋根には太陽電池パネルを置き、電気を発電。機能を兼ね備え環境を考えた設計でもあります。

## ホッコクギンコウ ムサシガツツシテン

北國銀行武蔵ヶ辻支店

HOKKOKU BANK  
MUSASHIGATSUJI BRANCHI

村野藤吾若き日の貴重な作品



**A** 建築  
Architecture

武蔵ヶ辻を20mお散歩した建築

建築家村野藤吾の若き日の貴重な作品。昭和7年に北国銀行武蔵ヶ辻支店として建造されました。近江町市場の再開発に伴い、曳家（建物を基礎ごと持ち上げ「ころ」を使って移動すること）

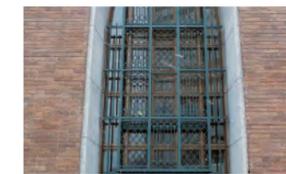
により、1日に6~7m、5日間で約20mゆっくり現在の位置へとお引越し、同時に、エムサゲの方向に向いていた正面も、金沢駅へと続く道にほんの少し向きを変えています。



**B** 内部空間  
Inside

機能も増え楽しめる建築に

改装後、1階には銀行の支店の機能に加えてカフェが併設、3階にはギャラリーが入りアートを楽しめる空間に。かつて使用されていた金庫扉もインテリアとして展示。内部でもかつての面影を感じさせ、楽しめる空間へと変わりました。



**C** 銅製レリーフ  
Relief

歴史経て復元完了

今ではきれいな姿を見ている正面のシェルアーチ状の窓の銅製のレリーフ。過去には戦争中の鉄・金属の回収で一度失われていたことも。しかし再開発の際に作り直され、再度元通りに、大切に受け継がれています。



**D** 外部空間  
Outside

こだわりは細かなところまで

鉄筋コンクリート造3階建てでトップアーチと正面ファサードの構成、タペストリータイルの外観が特徴となっています。外観は手焼きの焦げ茶色のスクラッチタイルを貼った直方体に、2階部分の高さを持つ大きな3つの表現的なシェルアーチ（砲弾型アーチ）がアクセント。アーチ内部の格子状の欄など、その装飾は目を見張るものです。

PICK UP  
KENCHIKU  
02

ココダケノ  
ハナシ



**A** 外壁  
Wall

変化も計画の内

図書館正面の焦げ茶色の壁。実は錆びにとっても強いコルテン鋼という金属素材で、自ら錆ることで膜を作り、内部まで錆びていくことをブロックするというユニークな材料。外壁は年月と共に深く落ち着いた色味へと移ろってゆくところまで計画して使用されています。



**B** 赤煉瓦  
Red brick

赤煉瓦のアクセント

大正から平成まで、1世紀もの歴史を刻んだ赤い煉瓦壁。赤煉瓦は歴史の深みや重みを感じさせながらもアーチ状の白いサッシが一本調子の煉瓦壁を軽やかに魅せています。

## タマガワトショカン

金沢市立玉川図書館  
TAMAGAWA CITY LIBRARY

時代を超えた親子共同作品



**C** 歴史  
History

時代を超えての融合

煙草工場として建てられた煉瓦造の棟が別館近接しています。二つの棟を繋げる本館の中庭ブリッジにご注目。本館部との間に別館の煉瓦棟の意匠を取り入れることで、外観の違う2棟を融合させています。



**D** 親子共同作品  
Collaboration

谷口親子の共同作品

この一体は元々、明治時代に建てられた煉瓦造の煙草の専売工場でした。煙草工場が別の土地に移動したことで、残った工場跡の一部を近世史料館としました。その建物に付随する本館を、

金沢出身のモダニズム建築家の父と呼ばれる建築家谷口吉郎が監修し、その息子であるニュー・ヨーク近代美術館などを手がけた谷口吉生が設計した、親子唯一の共同作品。



**A** 広坂緑地  
Hirotsaka Park

何もない緑地

元々石川県庁舎の建物が広がっていたところは、全面芝生の開放感溢れる広場に。金沢城の石垣側にかけて広場を山なりにしたことで、建物の眺望から、広場と石垣間の道路を隠し、緑が広がるよ

うに見せています。普段は市民が散歩したり取組んだり、イベント時にはテントが並び、しいのき迎賓館の大きな魅力の一つとなっています。



**B** リノベーション  
Renovation

身近になった元お役所

老朽化が進み、取り壊す計画だった旧県庁。しかし、古き良きものを残したいという想いから、一部分を残したリノベーションの手法で生まれ変わりました。今ではお役所だった当初の面影も感じられる市民の憩いの場として多くの人に利用されています。



**C** 二つの顔  
Hybrid

2つの顔をもつ建築

表側は昔のままの煉瓦の姿でお出迎え。広場側は明かりを取り込み、景色を見せるガラスのニューフェイスと、二つの顔をもつ。表側には、樹齢約300年にもなる堂形の2つの大きなシノキが今も昔も訪れる人々を見守り続けています。

## シイノキゲイヒンカン

しいのき迎賓館

SHIINOKI CULTURAL COMPLEX

ふたつの顔をもつハイブリッド



**D** 構造  
Structure

石川県初のRC造。

大正時代に石川県で初のRC造として建てられた旧石川県庁舎。構造面もない時代、コンクリートの煙草の専売工場でした。煙草工場が別の土地に移動したことで、残った工場跡の一部を近世史料館としました。その建物に付随する本館を、

現在鉄筋コンクリート造と鉄骨造で造られているしいのき迎賓館。旧県庁部をもたせるために、基礎には免震構造を採用。地下にもくるとその最新技術が見れちゃいます。

たくさんのアートがあなたをお出迎え

## カナザワ アートアベニュー

まち歩きを楽しむ倍増  
まちがいなし！

金沢アートアベニューとは、市民や観光客が散策しながらアートを楽しめる空間。2004年からは、「金沢まちなか彫刻作品コンペティション」が実施され、金沢駅から市中心部までの沿線を舞台に様々な現代アート作品が見られます。また、昭和43年ごろから彫刻が設置されているなど、年代の違いによるパブリックアートも見ることができます。



疲れたら自転車で、スイスイ、ラクラク

## まちなかのり

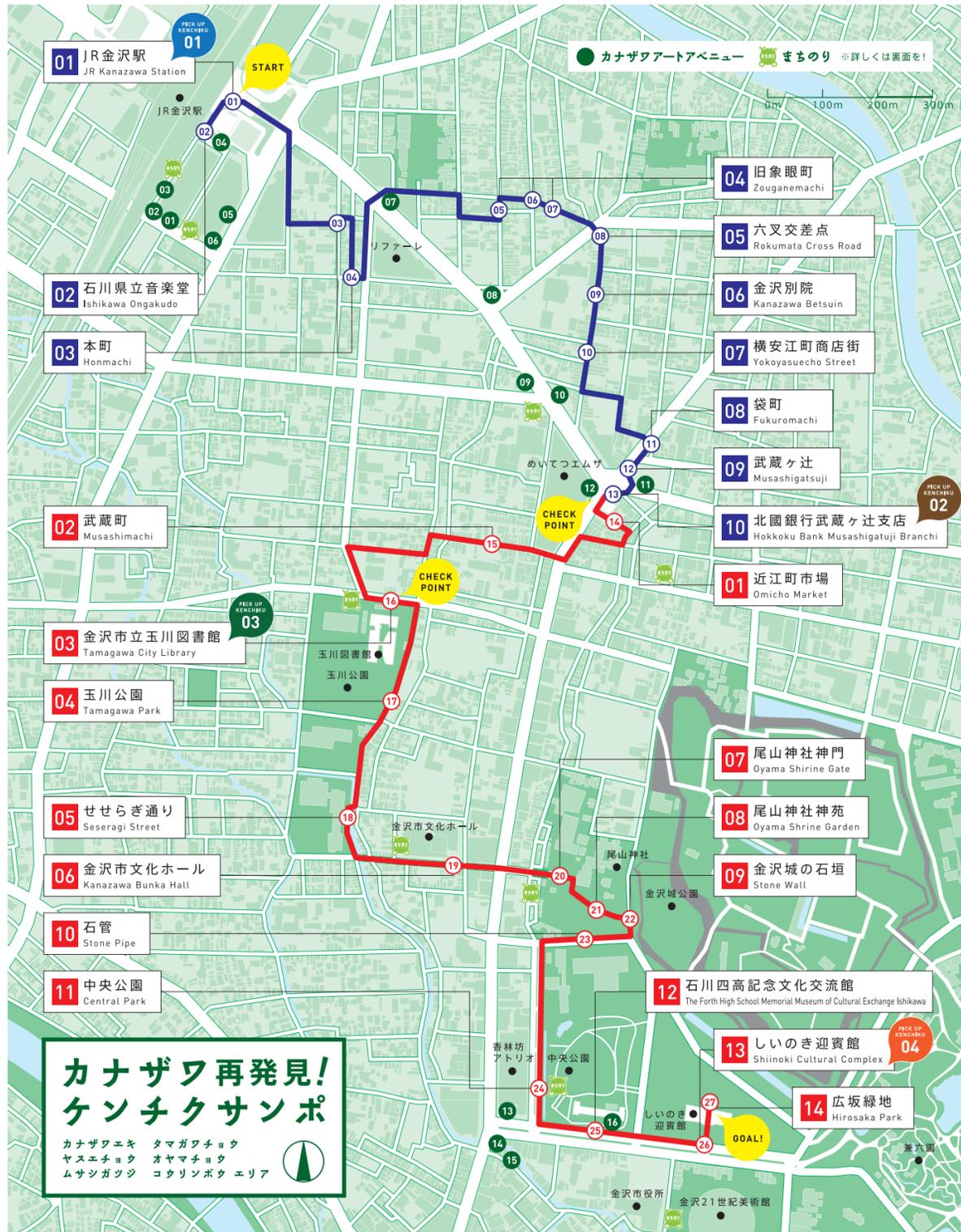
まちとまちの移動におすすめなのが自転車シェアシステムまちなかのり。乗り継いで移動するので停める場所にも困りません。歩くのもよし、漕ぐのもまたよし。



本を読むにちょうどいい。カナザワセントラルパーク。

⑩ 玉川図書館で借りた本を読むにもちょうどいいこの公園。自転車であぐらに走り抜ける人を横目に、外での読書はいかがでしょう。夕方には夕日が差し込み、ちょっと感傷的になってみたり。

⑪ まちなかのり屋外イベント会場と言えばここ。まさにセントラルパーク。中心市街地の緑地率が高いのは珍しく、市民も木々たちも誇りしげに再整備によって更に安全に、緑も育ちやすくなりリニューアル。お昼も夜も、お散歩にはもってこいのスポットです。



# エキからマチまで あるいてみよう!

## KANAZAWA KENCHIKU SANPO ORIGINAL COURSES

カナザワケンチクサンポは過去から未来をあゆむ小さな旅行です。建築技術の結晶である金沢駅、近代と現代の融合した建築群、金沢は歴史が重なるまちであるとともに、未来への歩調を導いてくれます。

金沢工業大学  
宮下研究室の  
学生が取材!

時間の目安 徒歩約60分 徒歩約75分



**01 JR金沢駅**  
JR Kanazawa Station  
金沢の最初のおもてなしはこちら。

⑩ 世界で最も美しい駅の一つにも選ばれた金沢駅。「弁当忘れても傘忘れるな」との言葉がある、雨多き金沢にて差し出されし雨傘、もてなしドーム。こちらの傘、アルミ合金建築物としては全国最大規模を誇っています。それを支えるのは14メートルもの高さをもつ鉄門。送水管や地下の排水口を太い柱内に取り込み、どどんと構えて皆様のお出迎えをさせていただいております。



**02 石川県立音楽堂**  
Ishikawa Ongakudo  
クラシックコンサートの殿堂。

⑫ クラシックコンサートといえば、石川県立音楽堂。金沢駅を出て右手に進むと、巨大な音叉のような彫刻がホール入り口の目印。ホール内の壁は石川伝統産業拭き漆。廊下は加賀友禅。観客席は石川の乾漆仕上げと、石川・金沢が活かした仕上がり。



**03 本町**  
Honmachi  
約百年のコントラスト。

⑬ 高層ビルとのコントラストが印象的な本町。海外旅行者向けの旅館も並ぶこの辺りは、大正時代の空気を所々残しつつ今日も営業中。⑭ 小道を抜けるとビルの間にチラ見え、入母屋造の大屋根。江戸時代生まれの本願寺金沢別院。



**04 旧象眼町**  
Zouganemachi  
巴橋、ここに在り!

⑮ 修復しても、建て替えてもなお、みんなが愛する象眼町。金沢駅を出て右手に進むと、巨大な音叉のような彫刻がホール入り口の目印。ホール内の壁は石川伝統産業拭き漆。廊下は加賀友禅。観客席は石川の乾漆仕上げと、石川・金沢が活かした仕上がり。



**05 六又交差点**  
Rokumata Cross Road  
六又交差点の片隅に。

⑯ 六又にも分かれる交差点にある立派な松の木の下に、極楽橋の文字。実は先ほどの巴橋下の用水と繋がっています。下を流れるは、親水用水の分流。用水は金沢の隅々まで行き渡って人々の生活を助けました。



**06 金沢別院**  
Kanazawa Betsuin  
わたしは6代目の現代っ子。

⑰ 先ほど見た大屋根は、京都の東本願寺の別院である金沢別院です。本堂は1546年に建立されてから6度も焼失。現在の本堂は、昭和37年に焼失した後の昭和46年に完成したコンクリート造の現代っ子。昭和32年竣工の大門と金沢指定保護樹の2本のイチヨウの木は生き残りました。



**07 横安江町商店街**  
Yokoyasuecho  
金澤表参道。

⑱ 金沢別院正面に位置する商店街。約300年前、浄土真宗金沢別院の門前町として商売が始まったのが横安江町商店街の始まりです。アーケードを脱ぎ捨て「金澤表参道」として生まれ変わったのが2006年。生活に密着したお店から、伝統工芸を扱うお店まで、ゆったりと営業中。



**10 北国銀行武蔵ヶ辻支店**  
Hokkoku Bank Musashigatsumi Branch  
村野藤吾設計のモダニズム。

⑳ 3つの尖塔アーチ状の意が目を引くこちらの近江町いちはの再開発で、曳家によって今の位置にお引っ越し。現在は、銀行、カフェ、ギャラリーとして、市民に愛されています。



**09 武蔵ヶ辻**  
Musashigatsumi  
金沢の交通の中心。

㉑ 北国街道に接し、昔から金沢の交通の中心となっていた武蔵ヶ辻。実はここ、昭和半ばには路面電車が走り金沢の中心地を繋いでいました。加賀藩政期から商業の街として賑わいを絶やさず、今も金沢駅と香林坊を繋ぎます。



**08 袋町**  
Fukuromachi  
旧袋町から袋町へ。

㉒ 町の両端が行き止まりのようにコの字型に曲っており、袋のような形状をしていたことからついたこの名前。一度は消えてしまった町名でしたが、平成19年に無事現役復帰。「旧」の文字が埋められた石碑を見つけたら、町名復活の証です。ほかにも探してみてください。



**06 金沢市文化ホール**  
Kanazawa Bunka Hall  
逆ピラミッドの大屋根。

㉓ 二つの棟の真ん中に逆ピラミッドがかかるこの建築。1982年に中学校の跡地に建設されました。施設の中心を抜くことで、住宅街と街なかを優しく繋いでいます。1998年には公共建築百選にも選ばれ、コンサートのみならず講演会や発表会にも使用されています。



**01 近江町市場**  
Omicho Market  
1721年開設・金沢の台所。

㉔ 天生8年(1580年)この場所で朝市が始まり、享保6年(1721年)市場が開設。「金沢の台所」と呼ばれてから290年の歴史をもつ近江町は、日本有数の市場。2009年の再開発で、昔ながらの市場の良さを残す今の姿となりました。正月の準備、お盆の買い出し、今日の晩ご飯。朝から夕方まで大にぎわい。海鮮丼は必須、満腹幸せ気分。



**02 武蔵町**  
Musashimachi  
裏手の生活感。

㉕ 武蔵ヶ辻の一本裏手に入ると、ちょっと落ち着いた雰囲気。裏手の生活感。裏手の生活感。裏手の生活感。



**08 尾山神社神苑**  
Oyama Shrine Garden  
静けさ漂う穴場スポット。

㉖ さてさて、尾山神社は神門のある正面入り口は有名ですが、裏手の入り口はあまり知られていません。正面とはガラリと雰囲気を変え、静けさの中へ足を進めると、鳥の鳴き声や風の音に気分もおどやか。ここ、穴場です。庭園の各部には茶室にちなんだ名前がつけられており、至鳥や琵琶島、琴橋など雅楽の響きが聞こえてきそうな庭。



**10 石管**  
Stone Pipe  
藩政期の水道跡。

㉗ かつて水便が悪かったために消火がうまくいかず全焼してしまった金沢城、同じ失敗を繰り返さないために人々は城内に水を引く工事の中へ足を進めると、鳥の鳴き声や風の音に気分もおどやか。ここ、穴場です。庭園の各部には茶室にちなんだ名前がつけられており、至鳥や琵琶島、琴橋など雅楽の響きが聞こえてきそうな庭。



**03 金沢市立玉川図書館**  
Tamagawa City Library  
谷口親子共同作品。

㉘ 細い路地を抜けると、赤いレンガに明治の香り。マチナカ玉川図書館に到着です。1913年に建てられた赤レンガ造の専売工場を、1978年に一部保存改修し、それに本館を増築させる方法で建てられました。建築家谷口吉郎とその息子谷口吉生の唯一の共同作品でもあります。赤レンガと融合させるために銀色の鉄骨や赤サビを使用して全体を統一しています。

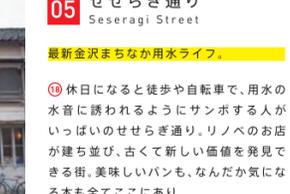


**05 せせらぎ通り**  
Sesoragi Street  
最新金沢まちなが用水ライブ。



**06 金沢市文化ホール**  
Kanazawa Bunka Hall  
逆ピラミッドの大屋根。

㉙ 二つの棟の真ん中に逆ピラミッドがかかるこの建築。1982年に中学校の跡地に建設されました。施設の中心を抜くことで、住宅街と街なかを優しく繋いでいます。1998年には公共建築百選にも選ばれ、コンサートのみならず講演会や発表会にも使用されています。



**07 尾山神社神門**  
Oyama Shrine Gate  
金沢の夜のシンボル。

㉚ まず目に入るこちらの神門。和洋中の三様式が取り入れられており、最上部には5色のギヤマンによるステンドグラスが光ります。明治8年に完成した当初、神門の光はステンドグラスを通して、夜間日本海を航行する船にまで届いていたとか。昔から金沢の夜のシンボルでした。



**09 金沢城の石垣**  
Stone Wall  
石垣の博物館・金沢城。

㉛ 石垣の博物館と呼ばれる金沢城は、様々な積み重ねの石垣を見ることが可能。この場所は金沢城内玉泉院丸庭園に面した石垣を見ることができ。用途や場所に合わせ、城を守り抜き役目を果たした石垣達を驚とご覧あれ。



**12 石川四高記念文化交流館**  
The Fourth High School Memorial Museum of Cultural Exchange Bikkawa  
日本で二番目の総合近代文学館。

㉜ 昔は昭和43年旧第四高校図書館として使われていました。日本近代文学館に次ぐ日本で2番目の総合近代文学館であり、赤レンガが積み上げられたファサードが特徴。ライトアップもされていて、夜道を楽しむことができます。



**13 しいのき迎賓館**  
Shiinoki Cultural Complex  
歴史と現代の二面性をもったおもてなし。

㉝ 大正13年に建てられた旧石川泉舎が、コンバージョンにより人々をもてなす文化施設へと生まれ変わりました。特徴は、大きな2本のしいのきが映える旧泉舎の顔を残した正面と、金沢城側の大きなガラス張りのファサード。歴史的な面と現代的なデザイン面は、古き歴史ある金沢と進化を続ける都市金沢の二面性を表しているのです。館内も新古が混ざりかなりハイカラな仕上がり。金沢城の石垣を眺めつつお茶もできちゃいます。

## MACHI & KENCHIKU PICK UP!

ついにゴール! さあ寝転びましょう。

㉞ 見えるは空と木々と石垣。金沢の真ん中だということを忘れて遠慮なく。これが今時カナザワライフ。平日は市民の通勤路、休日は子供から大人までの散歩コースとなっております。